様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　６月　25 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2011
課題番号：２２７２００９２
研究課題名（和文）
植民地期韓国における日本語文学資料のデジタル化とその活用による文学研究
研究課題名（英文）
Digitalizing materials about Japanese literature published in Japan-ruled Korea and literary studies based on these materials
研究代表者
楠井 清文（KUSUI KIYOFUMI）
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：５０４６９１０２

研究成果の概要（和文）：
本研究は、二つの目的を持つ。第一に、植民地期韓国で日本語によって刊行された文芸雑誌を収集し、デジタル化することで、資料の利便性を高めることである。第二に、それらに基づいて、当時の日本人の文学活動を明らかにすることである。研究成果では、第一の点について、三つのデータベースを構築・公開することができた。第二の点については、1920 年代に朝鮮で詩雑誌が盛んに発行されており、朝鮮の詩人と交流するなど、幅広い活動を行っていたことが明らかにできた。

研究成果の概要（英文）：
This study has two purposes. A first purpose is to improve convenience of materials by collecting and digitalizing literary magazines published in Japan-ruled Korea. A second one is to clarify literary movements by Japanese who have lived in Korea. I accomplished two results. About first purpose, I could build and publish three databases. About second, I clarified that Japanese poets had issued many magazines and communicated with Korean poets.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：外地文学、日本語文学、植民地文化研究、データベース、デジタルアーカイブ

１．研究開始当初の背景

戦前から戦中にかけて、台湾・朝鮮・満洲・南洋群島・南方など「外地」と称された植民地や占領地などの地域では、日本語による文学活動が盛んに行われていた。日本文学研究では 1990 年代以降、これらを「日本語文学」と総称して総合的に検討しようとする動きが高まった。

このような動向の中で、研究代表者は、特に植民地朝鮮へ移住した日本人達の文学活動に関心を持った。彼らは現地新聞の文芸欄や文芸誌等の媒体に、短歌・俳句・川柳・詩・

小説などを盛んに発表していた。またその活動は朝鮮に留まらず、満洲・台湾など他の「外地」や、日本本土である「内地」とも交流が盛んだった。

しかし彼らの活動について、従来の文学研究はあまり焦点を当てて来なかった。その理由として、第一に彼らの活動舞台となった現地新聞や文芸誌の多くが散逸し、資料として不十分な状態だったことが挙げられる。第二に、彼らの多くは無名の文学愛好家であり、正規の文学研究の対象となりにくかった。

従って本研究では、散逸した資料の調査収集と、それを閲覧可能な形にまとめることを第一の目的とした。その際、従来の紙媒体による復刻では、コストの面等で問題がある。そこで、現在進展の盛んなデジタル技術とWeb 環境を活用した、新たな資料の保存・閲覧の形式を模索するに到った。

２．研究の目的

本研究の目的は、上述のように、「外地日本語文学」研究のため、必要な資料をデジタル化し、研究の利便性を高めると同時に、その成果に基づいて具体的な研究を進めていくという、二つの点にあった。より詳細には、下記のような４つの目的に沿って活動した。

(1)1910～1945 年に韓国で発行された日本語文学資料の所蔵調査

朝鮮で刊行された文学書および文学に関連する雑誌のリスト化。リストに基づいた国内外の機関の所蔵調査。

(2)資料の撮影・収集と書誌情報の記録

現物調査と、デジタル撮影・複写による収集。また書誌情報のデータ化。

(3)資料閲覧データベースの構築目的

画像のデジタル化。また書誌情報と画像の連動したデータベースシステムの構築。

(4)データベースの公開と共同研究の展開

データベースの公開と共同研究。

３．研究の方法

本研究を進める上で、重要な役割を担ったのが、デジタル技術である。元来、文系研究とくに文学研究の領域では、デジタル技術との親和性は極めて低いと考えられてきた。しかし国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」の取り組みを始め、図書・雑誌資料についても、積極的にデジタル化していこうという機運は、既に国際的なものとなっている。

また、高精細のデジタルカメラや、データベースソフトの普及は、いわゆる文系研究者が、それらの技術を駆使して、自己の研究のために独自のデータベースを作製することを可能にした。そればかりでなく、Web 環境の整備にともない、研究者によってデジタル化された資料は、どのような場所でも閲覧できるようになった。

以上のように、文学研究のための資料をデジタル化することは、資料の保存という意味ばかりでなく、資料を共有し研究を活性化するという意義もまた持っているのである。

本研究では、資料のデジタル化に加えて、それらに基づいた文学研究の活性化を目的としている点に特徴がある。

４．研究成果

２年にわたる活動での成果は、大別して３点にまとめられる。

(1)まず**データベース構築・公開**である。技術的な面では GCOE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学）と連携して、①「植民地期『朝鮮』日本語文学雑誌データベース」②「白楊荘文庫　書籍・雑誌閲覧システム」の２つのデータベース公開を行った。

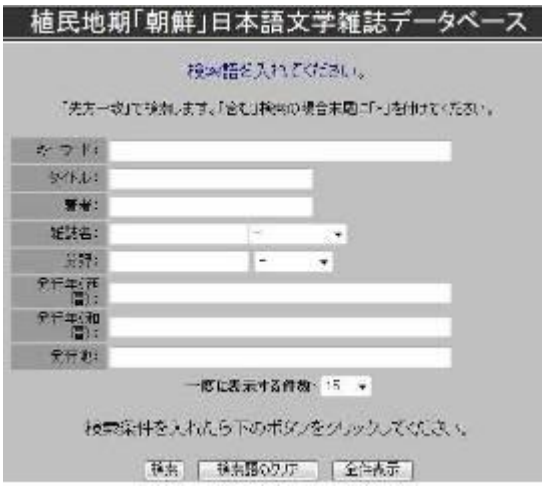
①植民地期「朝鮮」日本語文学雑誌データベース

本データベースは、上述した植民地期朝鮮で刊行された日本語による文学雑誌に関するものである。1920 年代に活躍した詩人・内野健児の携わった雑誌を中心に、21 点の文芸誌を収集・デジタル化し、記事タイトル・著者・雑誌名・ジャンル等による検索と画像閲覧を可能にした。

〈図１〉植民地期『朝鮮』日本語文学雑誌データベース

（http://www.dh-jac.net/db13/koreamag/adm/search.html）

②「白楊荘文庫　書籍・雑誌閲覧システム」

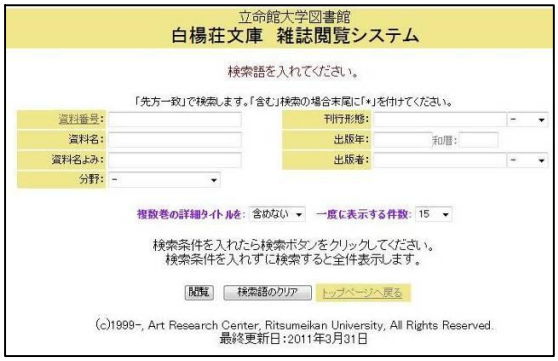


立命館大学・白楊荘文庫は、歌人で短歌研究者の小泉苳三の蔵書が寄贈されたものである。近代短歌に関する貴重資料が多く、小泉の研究の基盤ともなった蔵書である。また一方で小泉は、短歌雑誌『ポトナム』を朝鮮で創刊した。そのためか、彼の蔵書中には台湾・満洲など「外地」の短歌雑誌や歌集が多く含まれている。

このような観点から、研究代表者は白楊荘文庫の価値に注目し、立命館大学文学部とも提携して、書籍 104 点・雑誌 67 点の計 171 点をデジタル撮影した。この内、公開可能な図書 31 点、雑誌 10 点が Web 上で現在閲覧可能である。ただしこれらには目次情報を付していない。

〈図２〉白楊荘文庫　書籍閲覧システム
（http://www.dh-jac.net/db7/hakuyousou/BK/search.html）

〈図３〉白楊荘文庫　雑誌閲覧システム
（http://www.dh-jac.net/db7/hakuyousou/MG/search.html）



(2) 次に研究成果として挙げたいのは、**アジアを中心とした海外日本文化研究拠点との継続的な交流**である。特に高麗大学校日本研究センターは、二度にわたる資料調査で多大な協力を得た。それだけでなく、同センターでの研究と情報交換を行った。

また立命館大学・国際平和ミュージアムとも資料調査・使用の許可を得、朝鮮半島に関する絵葉書をデジタル化した。

(3) 最後に研究面の成果として、**アジアを視野においた新しい研究領域の画定**が挙げられる。本研究の目的は、朝鮮における日本人の文学活動を明らかにすることにあったが、その過程で彼らの活動が横断的なものであることが明らかになった。そこでは、内地／外地、日本人／朝鮮人、朝鮮／台湾／満洲などの相互交渉が見られる。朝鮮に関する調査を通して、アジア全域に広がった日本語文壇の様態という新しい研究テーマの発見につながったといえる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①著者名：楠井清文、論文表題：植民地朝鮮に対する「観光のまなざし」の形成―立命館大学国際平和ミュージアム所蔵絵葉書と文化人の紀行文を中心に―、雑誌名：アート・リサーチ、査読：有、巻：12、発行年：2012、ページ：31-43

〔学会発表〕（計５件）
①発表者名：楠井清文、発表表題：〈外地〉文学研究の新たな方向性　―デジタル・ヒューマニティーズを経由して―、学会名等：シンポジウム　「外地」文学への射程、発表年月日：2012年1月21日、発表場所：立命館大学（京都府）
②発表者名：楠井清文、発表表題：白楊荘文庫の研究的価値と小泉苳三の方法　―デジタルアーカイブ化を通して見えてきたもの―、学会名等：立命館大学日本文学会研究例会、発表年月日：2011年4月10日、発表場所：立命館大学（京都府）
③発表者名：楠井清文、発表表題：植民地経験の記録　―国際平和ミュージアム所蔵・朝鮮半島絵葉書と紀行文を中心に―、学会名等：シンポジウム　文化・文学に見る韓国併合と「朝鮮」へのまなざし、発表年月日：2010年11月28日、発表場所：立命館大学（京都府）
④発表者名：楠井清文、発表表題：中島敦「弟子」論　―「絶対普遍的な真理」という「教」を相対化する視点―、学会名等：第 47 回日本文芸学会大会、発表年月日：2010 年 6 月 26 日、発表場所：山口大学（山口県）
⑤発表者名：楠井清文、発表表題：国語／日本語という「ことばの呪縛」を越えて　―金石範「虚夢譚」を中心に―、学会名等：第 46 昭和文学会研究集会、発表年月日：2010 年 5 月 15 日、発表場所：昭和女子大学（東京都）

〔図書〕（計１件）
①著者名：木村一信監修・外村彰編、出版社名：亀鳴屋書店、書名：『外地の人々』、発行年:2011、総ページ数:307（担当 132-149）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
白楊荘文庫・書籍閲覧システム
http://www.dh-jac.net/db7/hakuyousou/BK/search.html
白楊荘文庫・雑誌閲覧システム
http://www.dh-jac.net/db7/hakuyousou/MG/search.html
植民地期「朝鮮」日本語文学雑誌データベース
http://www.dh-jac.net/db13/koreamag/adm/search.html
立命館大学グローバル COE　木村研究室
http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/JCSG/kimura/

６．研究組織
(1)研究代表者
楠井　清史（KUSUI KIYOFUMI）
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：50469102